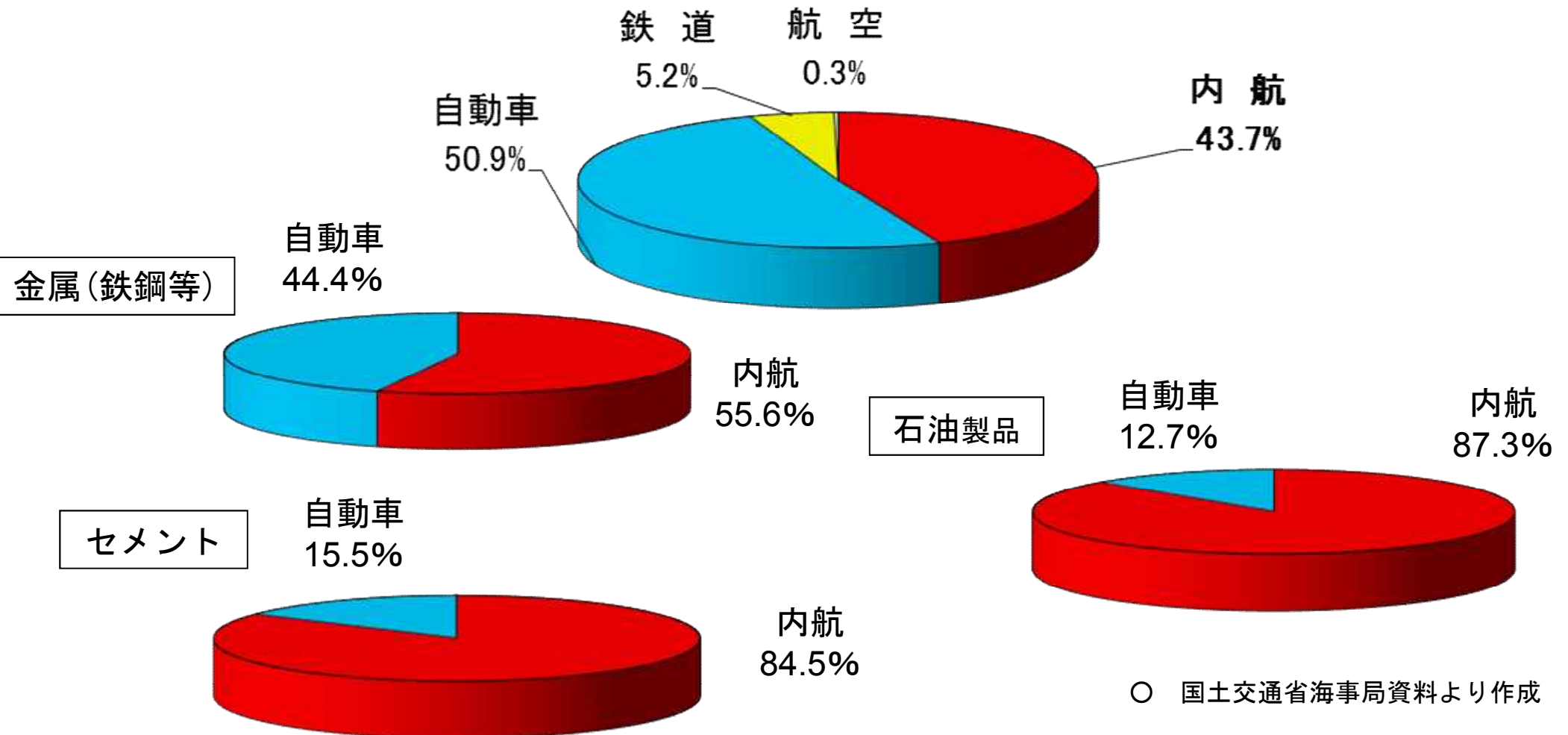


1. 内航海運の重要性

内航海運の輸送分担率

内航海運は、**国内物流の約4割**を担い、鉄鋼、石油、セメント等**産業基礎物資の約8割**の輸送を担う重要な物流産業

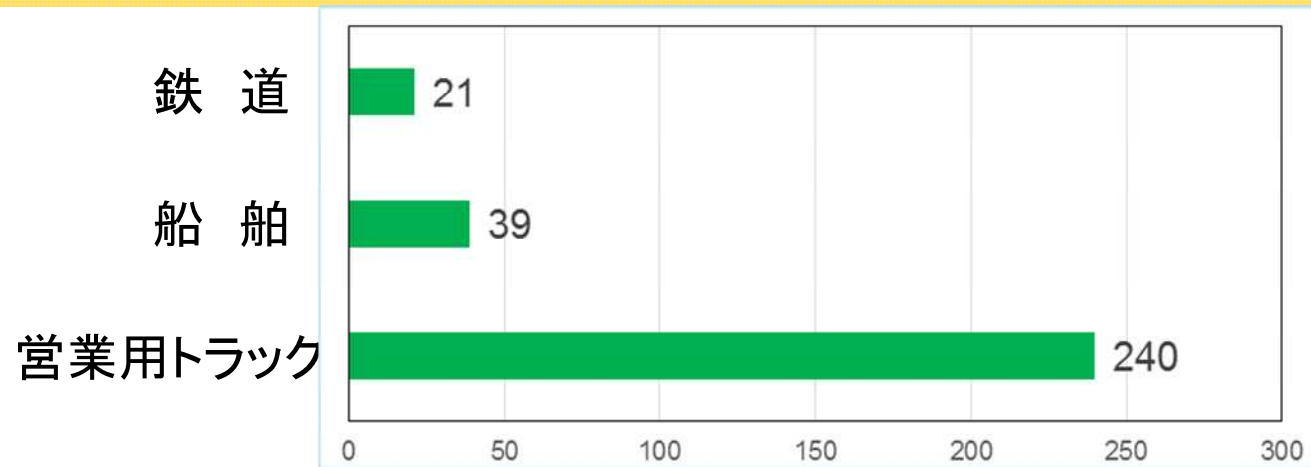
主要品目の内航輸送分担率（トンキロベース：平成29年度）



環境に優しい内航海運

内航海運は、**環境に優しい輸送機関**であり、地球温暖化対策上も有効。

1トンの貨物を1km輸送したときの二酸化炭素排出量



○国土交通省資料より作成。
(平成28年度)

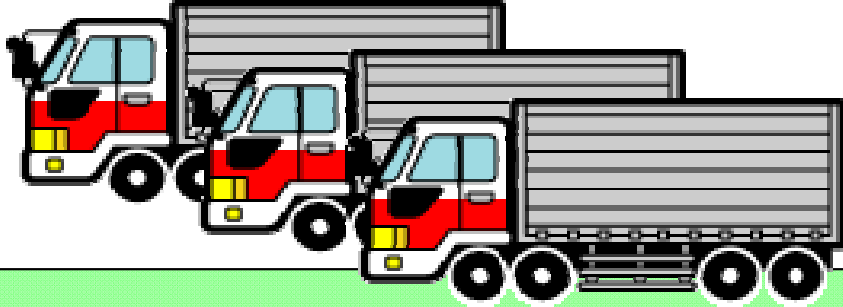
～ 船舶は効率的な輸送機関です ～



内航海運は、**重量ベース**で、
年間3億6千万トンを運んで
おり、**10トントラックで3600
万台に相当**

内航海運の輸送量を陸上輸送機関で代替することは、物理的にも交通環境問題からも極めて困難。

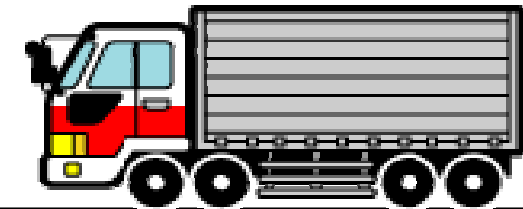
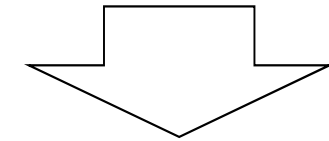
内航海運の輸送活動量を営業用トラックに転換した場合〔トンキロベース〕



営業用トラックの台数 : 137.3万台
輸送トンキロ : 1,756億トンキロ
1台あたり輸送トンキロ : 1,279百トンキロ

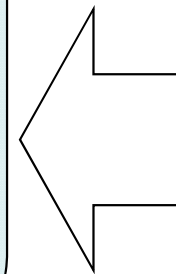


内航海運貨物船隻数 : 約5,000隻
輸送トンキロ : 1,804億トンキロ



営業用トラックに転換した場合

141万台が必要



陸上転換して141万台が走れば混雑が激化する

- 渋滞や事故等による遅延
- ドライバーの長時間運転
- 二酸化炭素排出量の増加

内航海運は、輸送効率が高い輸送機関

内航海運の産業構造の推移

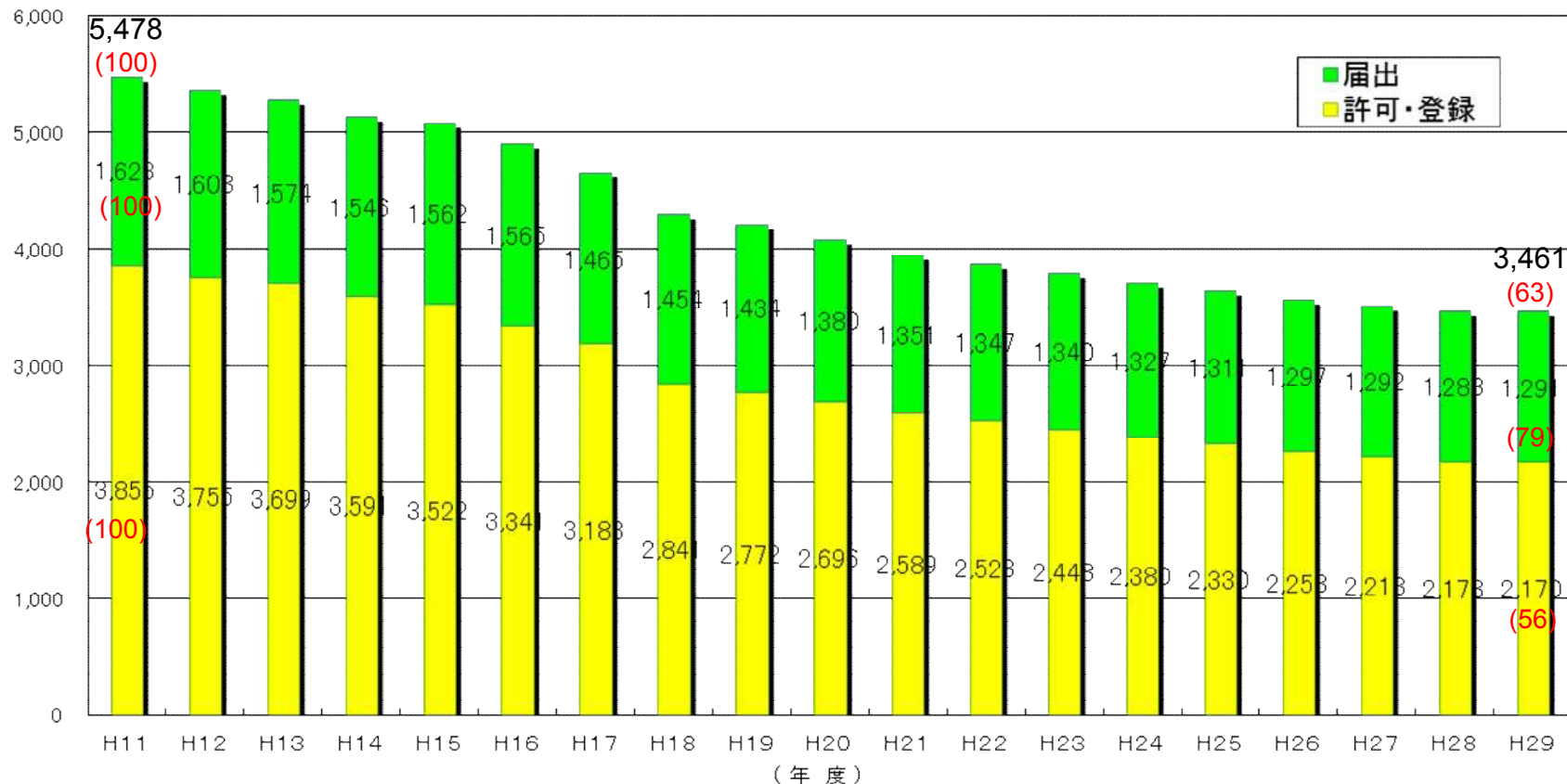
概 要

1. 内航海運業者数 3,461事業者（うち、休止事業者476者）
2. 登録事業者数 2,170事業者（うち、休止事業者240者）
3. 届出事業者数 1,291事業者（うち、休止事業者236者）

（注） 登録事業者は100総トン以上又は長さ30メートル以上の船舶を使用する者、届出事業者は100総トン未満かつ長さ30メートル未満の船舶のみを使用する者である。

いわゆる「一杯船主」と呼ばれる使用船舶が1隻以下の事業者で全事業者数の約7割を占めている。

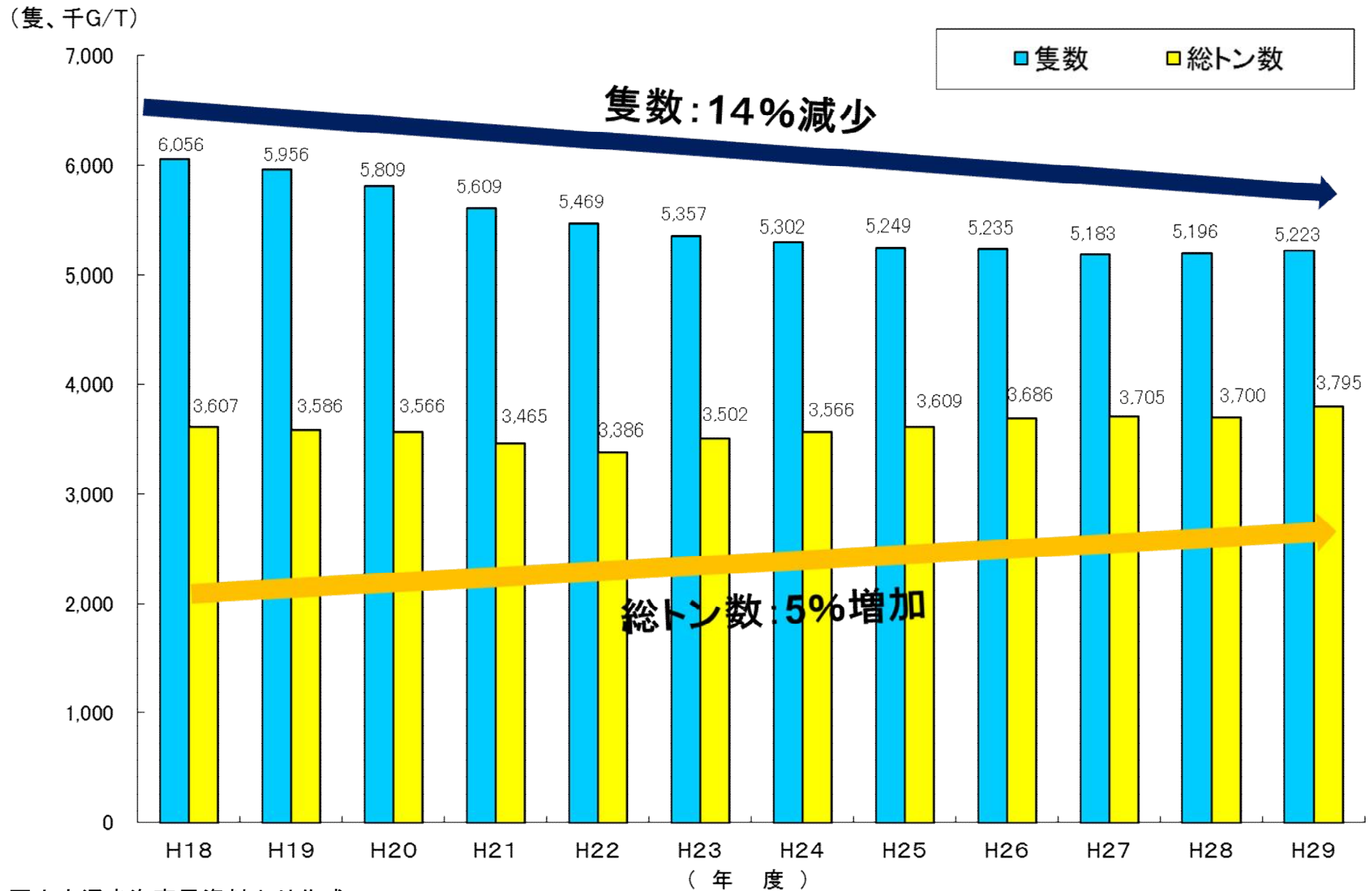
（事業者数）



○ 国土交通省海事局資料より作成

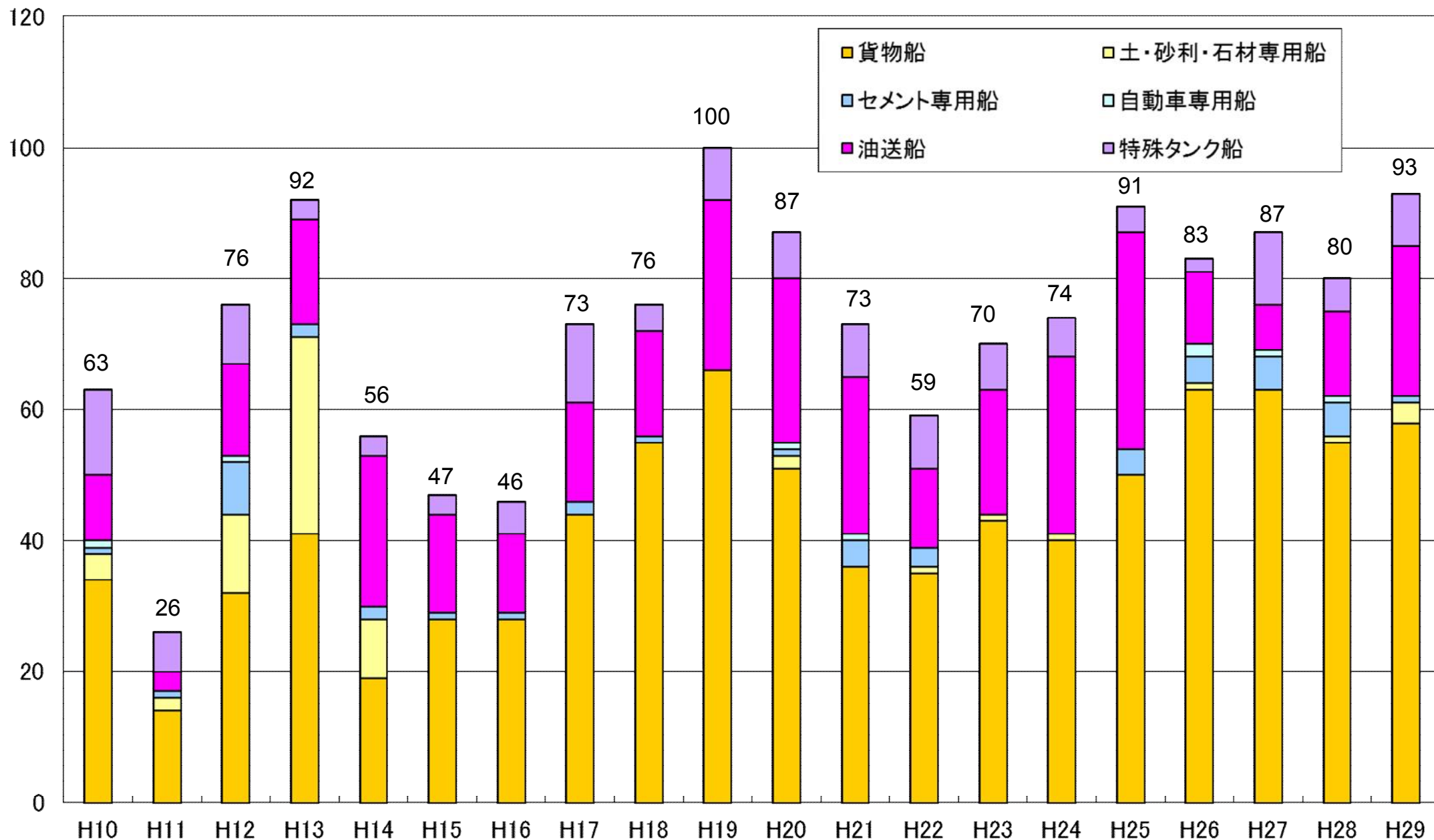
- （注） 1. 各年度末現在の事業者数で、休止事業者を含んでいる。
 2. 平成17年度からは改正内航海運業法の施行により、許可制から登録制へと移行している。
 3. 許可・登録事業と届出事業の兼業者は許可・登録にのみ計上している。

内航船の隻数の推移と船舶の大型化の傾向



船種別新造船の推移

(隻 数)



○ 国土交通省海事局資料より作成

(年 度)

ここでいう新造船とは、各年度末時点での内航海運業者の使用船舶のうち、進水から1年経過していないものをいう